

♪ 2024年度 *poco a poco* ♪

Nr. 2 | 2025年2月26日(水) 文責：プファイル・辰巳

職業講話会 ~ 音楽鑑賞会 ~ 送る会

~ 増築完成式 ~ 百人一首大会

そしてミニコンサート

先週、今週とたくさんの行事が続いています。上記以外にも中学部学年末テストが終わり、小学部の交流活動もありました。まさに行事が目白押しの毎日です。

音楽科関係の行事としては、2月21日(金)に音楽鑑賞会を実施することができました。増築完成式の中で、中学部のみなさんはピアニスト江尻南美さんの演奏を聴く機会がありました。せっかく江尻さんが来校してくださるなら、というわけで、午前中に小学部のみなさんのためにも、ミニ鑑賞会を開いていただきました。

小学部1~3年生の部、4~6年生の部、そして中学生と来賓の方々に向けて・・・大変だったと思うのですが、3部に分けて、それぞれの学年に応じたプログラムを江尻さんが用意してくださいました。ショパンあり、シューマンあり、そして日本人作曲家の作品も取り混ぜて、すばらしい演奏を聴かせてくださいました。

3階の多目的ホールの響きは楽しめたでしょうか。新しいホールで生演奏を体験できてよかったですね。そして、明日は小学部1~4年生のミニコンサートがあります。先週中に関係学年にはプログラムを配付いたしました。保護者のみなさまには、時間に余裕を持って音楽室にお集まりいただければと思っています。温かいご声援をよろしくお願いいたします。



音楽こぼれ話 <音楽~音学~音が苦!? ②>

義務教育の中で、何故音楽を学ばなければならないのでしょうか。前回からこのことについて考えてきました。生活を豊かにするために、そして教養を深めるために、音楽を学ぶことは必要なことでしょう。でもそれだけでは「不可欠」とは言い難い、というところで今回は<つづく>となりました。

長い歴史の中での『音楽と社会』『音楽と生活』『音楽と人間』・・・などについて考えてきた結果、私なりにたどり着いたのは、「音楽は付属的、アクセサリ的に人間生活の中に在るのではなく、もっと深い部分で人間とは切っても切れないつながりを持つものではないか。」という考えです。

空腹になれば「食べたい」という欲求が、体が凝り固まったようなときは「体を動かしたい」という欲求が、疲れたときは「眠りたい」という欲求があるように、「音楽を聴いたり演奏したりしたい」という欲求が、人間の魂の奥底にはあるのではないかと思います。

楽しい気分の際は、つい鼻歌を歌ってしまいます。疲れた時、悲しい時は心慰められる音楽を聴きたくなります。風の音、雨の音、鳥の鳴き声など自然界の音とともに、ふと瞑想的な音楽の中に身を置きたくなる時があります。みなさんの生活の様々な場面で、音楽は存在するものです。動画やゲームのBGMがなければ、おもしろさは半減でしょう。町の中にも音楽は溢れています。

現代社会のような電子機器の発達していなかった太古の昔から、世界のあらゆる民族が、祭りの時、弔いの時、婚礼の時などに音楽を奏でてきました。そして様々な楽器を創り出してきました。音楽は人間社会の一部であり、魂の叫びであり、祈りの言葉のようなものであったのではないかと思います。

もちろん、魂の叫びや祈りには別の形、美術作品であったり、文学であったり、踊りであったり、様々な表現方法があると思います。表現方法は異なっても、それが人間の深層部分と直結したものであるということが、音楽科にしても美術科にしても、義務教育の中で学ぶ意味へと繋がっていくのではないかと、というのが私なりの考えです。

音を楽しむ「音楽」から始まって、音楽を学び、音楽を通して人の世の喜びや悲しみを分かち合える社会につながっていくといいな、と思っています。

